

# APU 中国語学習者への自立学習支援の必要性

## — 中国語学習者の学習実態の調査研究報告 —

王 蕊

### アブストラクト

近年、APUにおいて中国語学習のニーズが高まっている。しかし、各レベルの到達目標と学習者の実際の中国語運用能力との間には大きな差が存在しているのが現状である。また、履修レベルが高くなるにつれ、履修者の人数が著しく減少することも問題視されてきている。これらの問題にどのような客観的な背景と原因があるのか。これを解明するため2年間にわたりAPU中国語学習者の学習実態を調査した。調査結果から、到達目標と学力との間に大きな差が生じる根本的な原因として自立的な中国語学習ができていないという実態が浮かび上がってきた。また、履修レベルが高いほど履修者の人数が減少する背景には、就職活動や講義科目の重圧、ほかの言語も学びたいという欲求などが介在していることがわかった。現状は深刻である。個々の教員がこれらの調査結果を真摯に受け止め、より一層効果的な中国語教育の実践に努めるだけでなく、大学としても具体的な対策を取ることが求められる。本稿では、その具体的対策として、これまで行われてこなかった中国語学習者への“自立的な学習支援”の導入を提案したい。

### キーワード：学習動機、学習実態、第二言語習得、自立学習、学習支援

#### 1. 研究の必要性と目的

近年、APUにおいて中国語学習のニーズが高まり、履修者数が言語教育科目では日本語と英語に次ぎ、3番目に多くなってきている。2010年度秋 semester 現在、中国語Ⅰは8クラス、Ⅱは4クラス、ⅢとⅣはそれぞれ2クラスの開講となっている（各クラスの定員は25名）。各レベルとも週4コマ（1コマ=95分）で1 semester をもって完結する。

各レベルに到達目標の目安が設けられており、例えば中国語Ⅳの履修を通して中級レベル（中国語検定2級相当）の中国語能力に到達することが目標にあげられているが、実際にはゼロスタートから履修してきた学習者でいまだ中国語検定2級に合格した者はなく、3級に合格した履修者も僅かである。華僑や留学経験者を除くと、各レベルの履修終了者が「聞く・話す・読む・書く」技能面で到達目標を達成しているとは言い難い状況である。

もちろん中国語検定に合格することだけを評価基準とすべきではないが、到達目標と学習者の実際の中国語能力との間に差が存在していること、また履修レベルが高くなるにつれ、履修者の人数が著しく減少してくることは放置できない問題である。

これらの現状には複合的な原因と背景があるはずであり、その真の原因を把握できないかぎり、さらなる学習効果の高い中国語教育を創出することはできないであろう。教育現場の教員こそ、その原因を客観的かつ公平に追究する必要がある。以上の問題意識に基づき、APU中国語学習者の学習動機とその実態を中心に調査研究を行った。

#### 2. 研究の方法

##### 2.1 学習実態調査の作成にあたって

本調査研究の計画・実施にあたって、日本における大学英語教育の実態調査を先行研究とし参考とすることが多くあった。いくつかの大学中国語教育の実態調査と比較してみたが、やはり中国語教育よりも英語教育の実態調査のほうが数もその内容もより充実したものであった。特にJACET（大学英語教育学会）九州・沖縄支部の宮原文夫、名本幹雄、山中秀三など6名が6年間にわたって調査研究した『中・韓・日3カ国の大学生の英語学力と英語学習実態』（1997）が非常に詳細で広範囲に及ぶものであった。この研究の特長としては、全ての被験者に対してアンケート調査を実施す

るだけではなく、学力共通試験も実施したところであり、これにより、学力と学習実態の密接な関連性があきらかになった。また、これは、日本において最初の本格的な英語教育の国際比較としても高く評価されている。その学力共通試験の結果をみると、成績の良い順に、中国、韓国、日本となっている。また、実施した学習実態調査を通して、3カ国の学生間での英語学習に対する目的意識の明瞭さ、学習意欲には歴然とした違いがみられた。さらに、試験の成績が良い学生ほど学習意欲が高く、はっきりとした目的意識を持っていることがわかった。

これらの調査結果はいずれも外国語学習を研究する者にとって貴重な資料であり、そこで明らかにされた学生の学習に対する態度、学習実態、教員の意識、カリキュラムなどには本稿の調査研究を計画・実施するにあたって参考とすべきポイントが多くあった。例えば、本稿のアンケート調査が「パートⅠ 学習意欲」、「パートⅡ 学習実態」という2つのテーマを中心に構成されていることや、各パートの設問項目の設定など、上記の文献を参考にしつつ、現在のAPUの中国語教育を通して気づいたことを取り上げ作成した。

## 2.2 事前調査の実施と調査内容の修正

まず、2008年12月、履修者数の減少の原因と学習意欲の関連性を探るため、事前調査用のアンケートを作成し、翌2009年1月、各クラスの担当教員の協力を得て中国語Ⅰの履修者全員にアンケートを実施し、111部の有効回答から学習者の学習動機、学習継続の意欲の有無などについて貴重なデータを収集することができた。しかし、アンケートの設問として、授業以外の学習状況や被験者の今後の受講予定などについてより明確にするべきであったとの指摘をいただき、その後、調査内容と項目を一部修正し、2010年の11月に最終的なアンケートの設問が完成し、実施されるはこびとなった。

## 2.3 本調査の実施とデータの集計

調査の使用言語は日本語、回答方法は最も該当する選択肢に○をつけるという単数回答方式である。2010年11月下旬から12月初旬にかけ、中国語Ⅰの3クラス、Ⅱの2クラス、Ⅲの2クラス、Ⅳの2クラスの学生を対象にアンケートを実施し、153の有効回答が収集できた。

アンケートの作成と集計にはMicrosoft Office Excel 2007を使い、細心の注意を払いながら153人分のデータを1件ずつ入力した。また入力ミスを避けるために、データのチェックにも時間を費やした。

## 2.4 調査のねらいと特色

本調査研究のねらいはAPUにおける中国語学習者の学習意欲と学習実態などを解明することである。調査結果を教員間で共有することにより、APUの中国語教育をさらに向上させることができると考えた。また、本調査の特色は中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ各レベルの学習実態の比較分析である。その間に有意差が見られるかどうかに関心を合わせた。

調査用のアンケート内容はレベルにより若干異なるが、「回答者データ」、「調査パートⅠ」、「調査パートⅡ」の3つの主要部分によって構成される。回答者データに国籍、学年、学部記入欄を設け、レベルごとに国際学生と国内学生の比率などがわかるようにした。調査パートⅠには中国語学習の動機、中国語学習の継続予定の有無などに関する設問項目を設けた。調査パートⅡでは授業以外の学習実態、例えばテレビやラジオの中国語講座の活用、中国人学生との交流を通じた学習、孔子学院の利用などの項目が設けられている。各質問項目については巻末の添付資料を参考された。

## 3. 学習実態調査の結果

### 3.1 回答者の概要

回答者の個人情報についての設問では国籍、学部、学年を書かせたが、国籍区分を簡潔にするため、表1では国際学生と国内学生という表現を使用する。

設問のねらいは各レベルにおける国際学生数と国内学生数の比率の差と各レベルにどの学年の学生が多く履修しているかを知ることである。国際学生のうち最も多かったのは韓国、次いでタイ、ベトナム、インドネシア、ミャンマーなどアジア出身の学生がほとんどであった。中国語Ⅲを履修している学生の多くは2年生または3年生である。これは、就職活動を始める前までに履修を終わらせたいという背景があるかもしれない。また、中国語Ⅳになると

国際学生の受講者数が減少していることが分かる。これは、学習内容が高度になり、ほかの言語や講義科目の学習や課外活動との両立が困難になることが原因と考えられる。

表 1 回答者の概要

(数値：人)

	回答者数	国際学生	国内学生	APS 学部	APM 学部	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
中国語 I	57	21	36	30	27	10	29	10	8
中国語 II	34	16	18	12	22	4	17	13	0
中国語 III	27*	3	17	13	14	1	9	14	3
中国語 IV	35	9	26	17	18	1	11	17	6
合計	153	49	97	72	81	16	76	44	17

(\*国籍欄に記入しなかった7人を含む)

### 3.2 「調査パート I」 学習動機と学習継続意欲

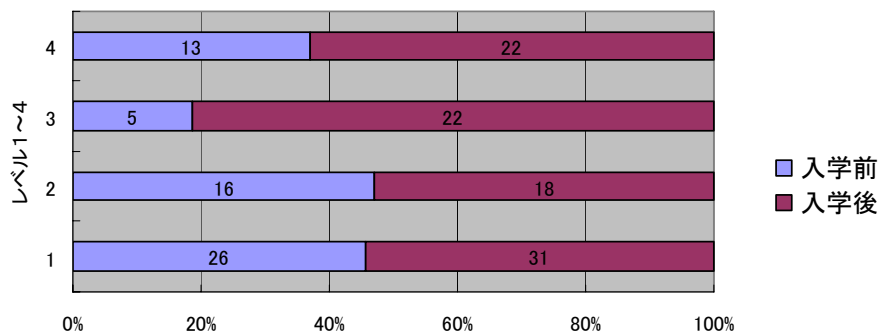
#### ① 設問とねらい

このパートでは中国語の学習動機と今後の学習継続意欲の有無など6つの設問項目を作成した。「いつから中国語を勉強したいと思いましたか」、「どうして中国語を勉強したいと思いましたか」、「中国語 I、II、III、IVのどのレベルまで履修する予定ですか、また、その理由は」、「中国語を履修するに当たってどのようなことを参考にしますか」といった内容である。

これらの設問のねらいは中国語の学習動機、学習継続意欲の有無とその理由をさぐることであり、また、これらの回答についてレベル間の異動をつかむこともねらいの一つである。履修レベルが高くなるにつれ、履修者の人数が著しく減少するという長年に渡る課題について、その原因が教員の指導方法にあるのか、授業の内容にあるのか、あるいは学生自身によるものかといった考察を通して客観的に分析することを試みる。

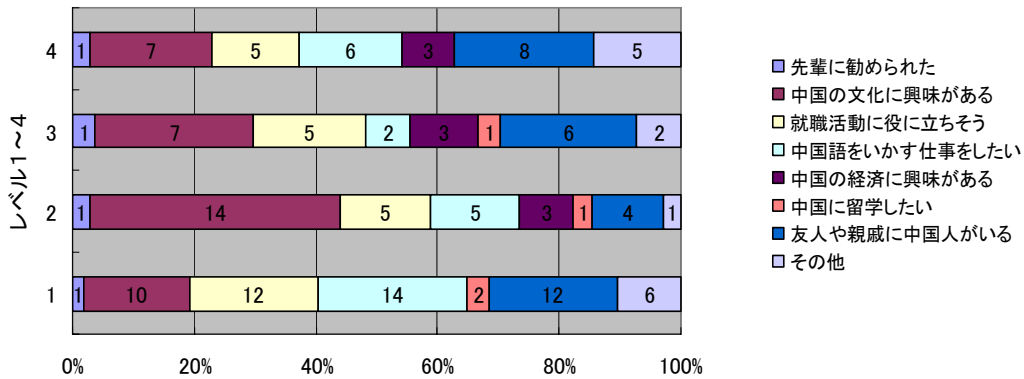
#### ② データと分析

##### 1. いつから中国語を勉強したいと思いましたか (数値：人)



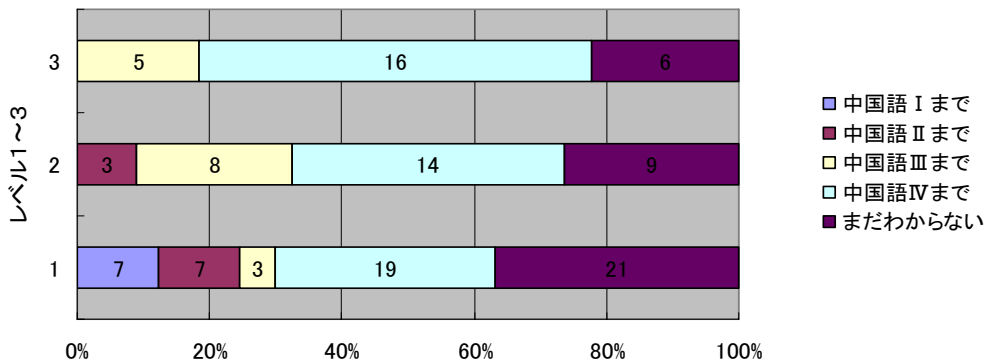
設問 1 では、APU に入学前から中国語を勉強したいと思った学生が、全 153 人のうち 60 人もいたことは驚きであった。約 40% の中国語学習者が APU 入学前からすでに中国語に興味を持っており、特に中国語 I と II では、それぞれ 46% と 47% という予想より高い比率であった。一方で、APU 入学後に中国語を勉強したいと思った学生はそれぞれ中国語 I が 54%、II が 53%、III が 81%、IV が 63% であった。

2. どうして中国語を勉強したいと思いましたか (数値: 人)



中国語を学ぶ動機について、中国人の家族や友人がいる、と答えた学生が153人中30人もいた。この回答は学生達が積極的に異文化コミュニケーションを行っていることをある程度反映している。各レベルの学習動機の上位3つは、中国の文化に興味がある(153人中38人、25%)、中国人の家族や友人がいる(153人中30人、20%)、中国語を活かす仕事をしたい(153人中25人、16.3%)の順であった。文化に興味があることや友人、家族に中国人がいるといった日常生活を通じた学習動機が多く見られる一方、仕事や就職といった将来の活動のための準備として学習するという動機にも注目すべきものがある。

3. 中国語のどのレベルまで受講する予定ですか (レベル I ~ III) (数値: 人)



設問3は学習継続の意欲についての設問である。中国語IVまで受講すると答えた学生は、レベルIが33%(19人)、IIが41%(14人)、IIIが59%(16人)と、受講レベルが高ければ高いほど中国語学習を継続する意欲が高いことが分かる。さらに、中国語IVの受講者への「中国語IV履修後、さらに中国語の学習を継続する予定がありますか」との問いに対しては、89%(35人のうち31人)が「継続する」と答えた。

一方、「まだわからない」と答えたのは、中国語Iが37%、IIが26%、IIIが22%と高いレベルほど少ない傾向がみられた。IとIIの学生に「まだわからない」と答えた理由について尋ねた。その回答の詳細を表2にまとめる。

表2 今後の履修予定について「まだわからない」と答えた学生数と理由（数値：人）

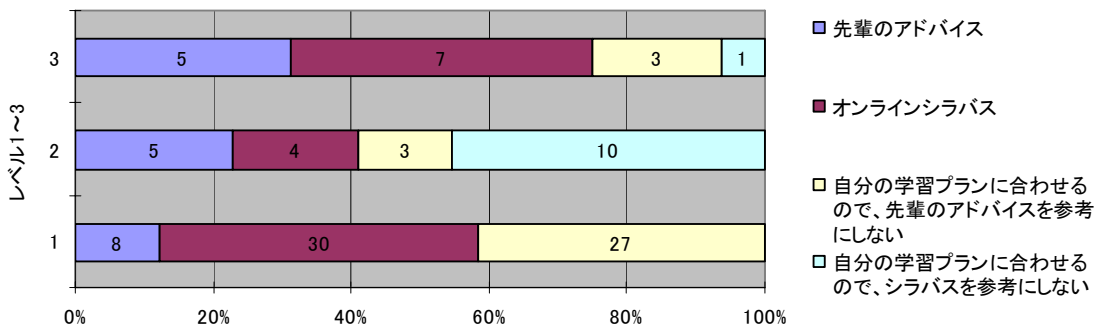
理由	中国語 I	中国語 II	合計
①単位が十分である	3	1	4
②留学・兵役・卒業・就職活動などの事情がある	6	3	9
③発音が難しい	1		1
④文法が難しい	1		1
⑤漢字が難しい	1		1
⑥他の授業の課題で忙しいので、中国語の予習・復習に時間がない	3	2	5
⑦授業の進度が速すぎる			
⑧授業内容が実用性に欠けている			
⑨先生の指導に満足できない			
⑩中国語の基礎知識だけを知りたい			
⑪ほかのAP言語を勉強したい（ ）	3	1	4*
⑫課題や小テストが多すぎてついていけない			
⑬その他（ ）	3	2	5*

（\*「⑪ほかのAP言語を勉強したい」に韓国語（2人）、インドネシア語（1人）との答えがあった。「⑬その他」にどのレベルまでいけばいいのかが分からない、専門科目を学びたい、授業の時間割りによるというコメントがあった。）

さらに設問3に関して「履修を継続しない」と答えたIとIIの学生にその理由をきいたところ、履修を継続しないと答えた10人のうち5人が留学・兵役・卒業・就職活動などの事情がある、4人がほかのAP言語を勉強したいと答えた。

学習者にとって中国語の発音・文法・漢字は難解で、そのハードルを越えることは容易でない。しかし、これは学習者が中国語を継続しない原因ではないということがわかった。パートIの調査を通じ、中級レベルまでの学習を継続しない、あるいは継続の決意ができない原因が卒業・就職活動による事情、他の授業との調整の難しさ、ほかの言語への興味等が全体の学習計画に影響していることが明らかになった。

4. （設問3でII、III、IVまで継続して学習すると答えた学生のみ回答のこと）履修することに当たってどのようなことを参考にしますか（レベルI～III）（数値：人）



この設問では、先輩のアドバイスを受け履修する、という回答が予想より少なかったが、趨勢数値からみればレベルが高くなるにつれ、先輩のアドバイスを参考にする学生の比率が高くなる傾向がうかがえた。また、オンラインシラバスを参考にする学生や、自分の学習プランに合わせると主張する学生の比率が高いことも分かった。これは中国語を履修する動機が学習者自身による主体的なものであることに裏付けている。

### 3.3 「調査パートⅡ」授業以外の自立学習の実態

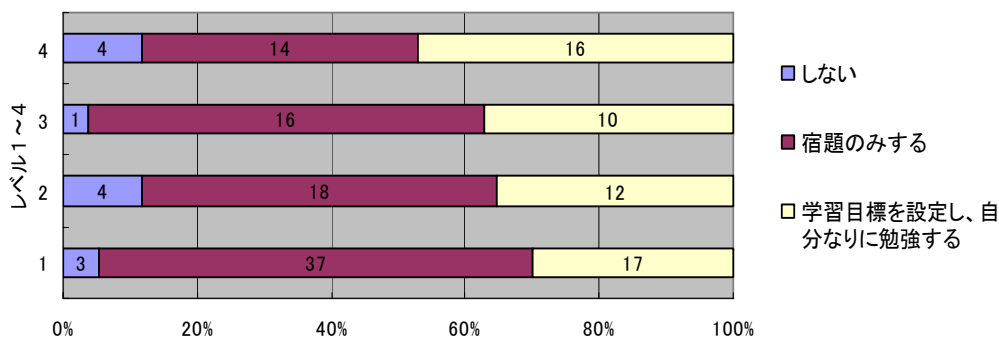
#### ①設問とねらい

このパートでは、各レベルの学習者について授業以外の学習時間や学習手段を中心に6つの設問項目を設けた。「自宅で中国語を勉強しますか」、「授業以外に平均して週に何時間程度中国語を勉強しますか」、「NHKの中国語テレビ講座及びラジオ講座を見ます(聞きます)か」、「中国語を勉強することによって中国人の友人が増えましたか」、「周囲の中国人学生と週に何時間程度会話練習をしますか」、「APU孔子学院の中国語講座を受講したいと思いますか」という設問である。

設問のねらいは授業以外の学習実態をさぐることである。教員は中国語学習者の学習実態を客観的に知る必要があり、それを知った上で学習者への自立的な学習をサポートする方法を具体的に考えなければならないからである。

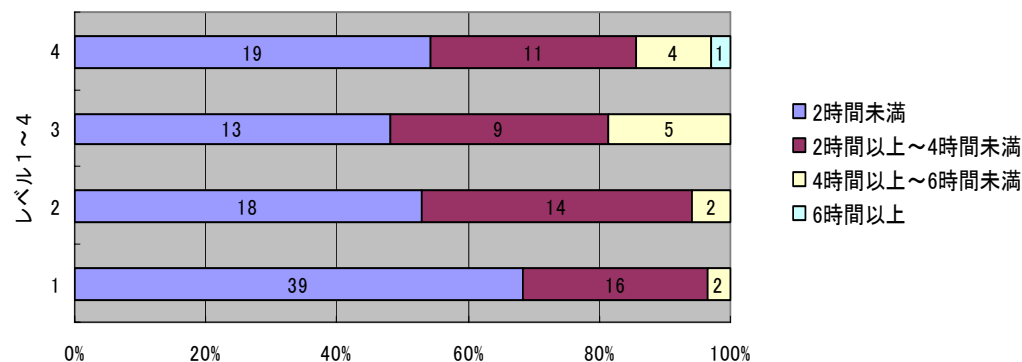
#### ②データと分析

##### 5. 自宅で中国語を勉強しますか(数値:人)



この設問の回答データによれば各レベルの中国語学習者のほとんどが自宅でも学習していることが分かる。特に学習目標を設定し、自分なりに勉強すると答えた者が全回答者153人のうち35人(36%)で、レベルが高いほど学習目標を持ち自分なりに勉強する者が多い。一方で全回答者のうち85人(56%)に関しては宿題のみの学習という、受動的な学習スタイルがある程度反映されている。

##### 6. 授業以外に平均して週に何時間程度中国語を勉強しますか(数値:人)

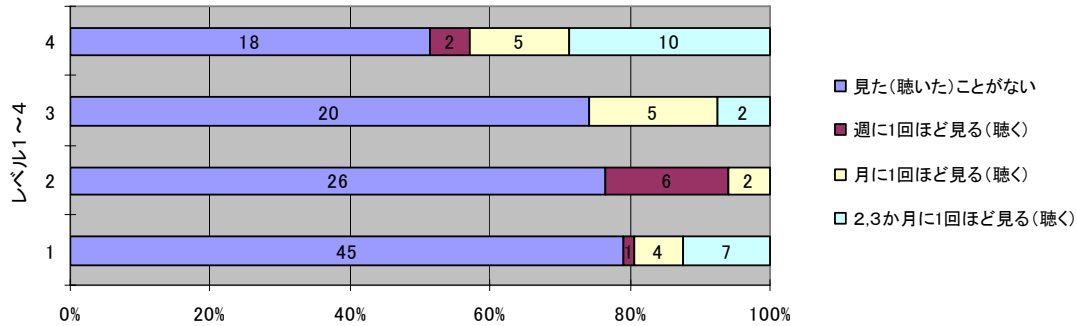


設問5の回答で、ほとんどの学習者が自宅で勉強していることが分かった。では、授業以外に学習者が週に何時間勉強するのかというと、2時間未満の学生が89人で、全体の58%を占めている。

週に2時間以上勉強する学生数は中国語Ⅰが18人(32%)、Ⅱが16人(47%)、Ⅲが14人(52%)、Ⅳが16人(46%)である。これは中国語Ⅱになると文法項目や文章の理解など学習内容が難しくなり、その予習復習が必要と

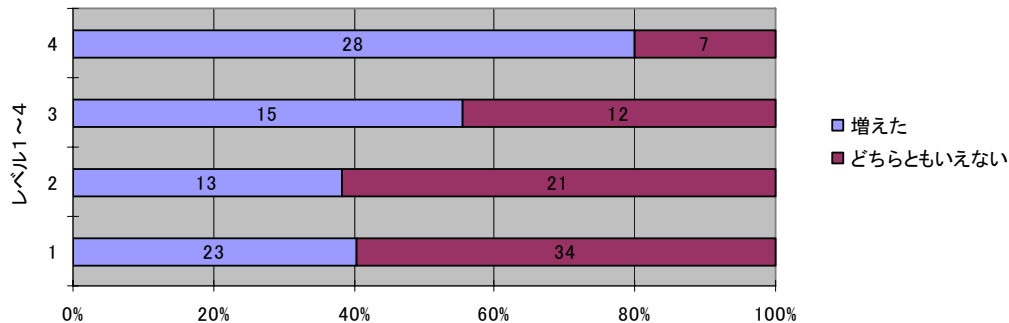
なるため、また学習者自身の学習意欲も中国語学習の開始時期より強くなっているため、授業以外の自学時間が多くなることが考えられる。

7. NHK の中国語テレビ講座及びラジオ講座を見（聴き）ますか（数値：人）



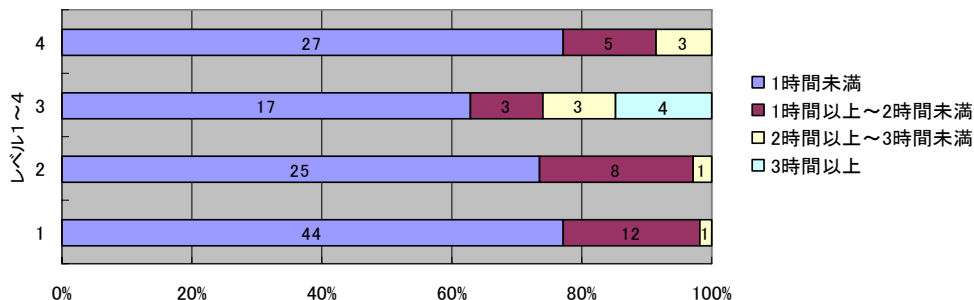
設問7は自学の手段としてNHKの中国語テレビ講座及びラジオ講座の利用状況について問うたものである。ここでもやはり履修レベルの高い学習者が履修レベルの低い者よりテレビやラジオの中国語講座を利用する機会が多くなることが分かった。また、見たことがないと答えた学生が全回答者数の71%（153人中109人）を占め、テレビ・ラジオの中国語講座を利用する学生が少ない状況が明らかになった。

8. 中国語を勉強することによって中国人の友人が増えましたか（数値：人）



中国語を勉強することによって中国人の友人が増えたと答えた学生は79人、全回答者数の52%を占める。特に中国語IVは80%と高い比率であった。中国語を勉強すればするほど、中国語を使いたい、中国人学生と交流したいという意欲が強くなったためであろう。

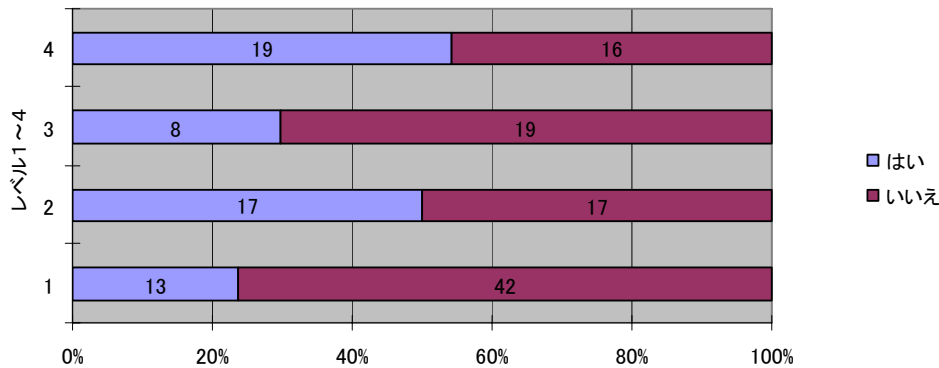
9. 周囲の中国人学生と週に何時間程度会話練習をしますか（数値：人）



中国人学生と会話練習をする時間について、最も多かった回答は週に1時間未満で、113人、全体の74%である。1時間以上会話練習する者は40人、全体の26%である。

ところで、前問8では全体の52%の学習者、特に中国語Ⅳの80%の学習者が中国語を勉強することによって中国人の友人が増えたと回答しているにもかかわらず、設問9では中国語学習者と中国人学生との交流時間がそれほど長いものではないことが分かった。その原因として考えられるのは、発音に自信がない、中国人学生の日本語が彼らの中国語より上手などである。

10. APU 孔子学院の中国語講座を受講したいと思いますか\* (数値：人)



この設問について、孔子学院の中国語講座を受講したいと答えた学生が57人、全体の38%を占めた。孔子学院の活動が各レベルの中国語学習者の間によく知られていることが裏付けられた。受講したい理由として、もっと勉強したい、速く上達したいといった学習意欲の高さをうかがわせる回答が多くあった。しかし、受講したくないと答えた学生が94人、62%もいた。その最も多い理由は、費用の問題であった。また、受講する時間がないと回答した学生も多く、費用と時間に回答が集中した。

(\*設問10は回答しなかった学生が2名いたので、全回答者数は151人となっている。)

表3 成果のある中国語学習とは (学習者の回答より)

	1位	2位	3位
中国語Ⅰ	学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい (35人)	HSKや中国語検定など資格を取得すること (9人)	中国語Ⅲ、Ⅳまで学習を継続すること (4人) 総合評価がA以上を取得すればいい (4人)
中国語Ⅱ	学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい (15人)	HSKや中国語検定など資格を取得すること (10人)	総合評価がA以上を取得すればいい (5人)
中国語Ⅲ	学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい (20人)	HSKや中国語検定など資格を取得すること (5人)	総合評価がA以上を取得すればいい (1人) 単位を取得すればいい (1人)
中国語Ⅳ	学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい (17人)	HSKや中国語検定など資格を取得すること (9人)	中国語イメージやフィールドスタディなど海外研修に参加すること (5人)

パートⅡの回答を振り返ってみると、学習者は授業以外にある程度勉強しているが、それは宿題や課題による受動的な学習の可能性が高く、そして自宅やキャンパスで利用できると思われる学習方法、例えばテレビ及びラジオ講座の活



用、中国人学生との会話練習、孔子学院の中国語講座の受講などについてそれほど積極的ではないといった印象を受ける。

表3のデータによれば、学習者が学習成果として最も期待しているのは学んだ中国語を使って中国人とコミュニケーションをとるということである。教員側も学生に期待することは同じである。しかし、自立的な学習を行わない限り第二言語の習得が不可能であることは、第二言語教育に関わる誰もが認識している。そのため、我々教員は今回の調査結果をどのように受け止め、今後どのような行動を起こせばいいのかについて次の節に述べる。

#### 4. 研究の成果と今後の課題

これまで、本調査研究の必要性和目的、調査方法、調査結果の統計及び分析について述べてきたが、研究の当初からある程度事前に予測されたこともあれば、調査と通して初めて判明したこともある。

パートⅠに関しては、約40%の学習者がAPUに入学する前から中国語を勉強したいと思っていたことは予測できなかった。中国語の学習動機について文化に興味がある、友人や家族に中国人がいるという文化要素の高い学習動機が最も多く見られ、また仕事や就職活動に中国語を活かしたいという将来と関連づけた学習動機も顕著に見られた。

パートⅡでは、自宅やキャンパスで利用できそうな学習方法、例えばテレビ及びラジオ中国語講座の利用、中国人学生との会話練習、孔子学院の中国語講座の受講などについてはそれほど積極的に行われていないことが明らかになり、自立的な学習ができていないことは驚きであった。

APUの中国語教育においては、到達目標と学習者の実際の中国語運用能力との間に大きな差が存在し、また、履修レベルが高くなるにつれ、履修者の人数が著しく減少するという実態がある。この2つの実情の根本的な原因はどこにあるか、それを客観的に解明することが今回の調査研究の目的であった。

APUの中国語学習者が目標言語環境にさらされていないため、学習した中国語の知識を実際の中国語コミュニケーションに応用する機会が少なく、学習意欲が低下したり、中国語能力を向上させることができないでいることが考えられる。結論として、到達目標と実際の中国語能力との間に差が生じる最大の要因として、自立的な中国語学習ができていない事実が挙げられることが今回の調査で明らかになった。また、履修レベルが高くなるほど、履修者の数が著しく減少するのは、卒業・就職活動などの事情や、他の授業の課題で忙しいこと、またほかのAP言語を勉強したいといった学習者自身の全体的学習計画に影響されているものであることが客観的に解明できた。

しかし、学習者の学習能力を押し上げていくのが教員の使命のひとつである。APUの中国語学習者が明確な学習動機をもっているにもかかわらず、自立的な学習ができていないという実態を真摯に受け止めなければならない。そして、表3で示された、学習者が期待する成果をもたらず中国語学習を目標に定め、これまで行われてこなかった中国語学習者の自立学習を支援するよう取り組んでいくことが必要である。具体的には次の3つの点を提案したい。①SALC

(Self-Access Learning Centre)に中国語学習スペースを設け、中国語の教員が必要に応じてサポートする。②中国人留学生とのペア学習をさらに推進する。③HSKや中国語検定試験など学習者のキャリア形成に役立つような学習をサポートする。これらの取り組みの実施と成果に関する報告についてはいずれ稿を改めるつもりである。

#### 参考文献

- 小池生夫ほか(1990)『わが国の英語教育に関する実態と将来像の総合的研究』、慶應義塾大学  
宮原文夫ほか(1997)『このままでよいか大学英語教育—中・韓・日3か国の大学生の英語学力と英語学習実態』、松柏社  
植村麻紀子(2010)「世界の外国語学習スタンダードとこれからの中国語教育」『中国語教育第8号』、中国語教育学会  
東北大学高等教育開発推進センター(2009)『大学における「学びの転換」と言語・思考・表現』、東北大学出版会  
日本中国語学会ソフトアカデミズム検討委員会(2002)『日本の中国語教育—その現状と課題』、好文出版  
胡玉華(2009)『中国語教育とコミュニケーション能力の育成—「わかる」中国語から「できる」中国語へ』、東方





7. あなたは自宅で中国語を勉強しますか。

- ①しない
- ②宿題のみをする
- ③学習目標を設定し、自分なりに勉強をする

8. あなたは授業以外、平均して週に何時間、中国語を勉強しますか。

- ①2時間未満
- ②2時間以上～4時間未満
- ③4時間以上～6時間未満
- ④6時間以上

9. あなたはNHKの中国語テレビ講座及びラジオ講座を見ます(聴きます)か。

- ①見た(聴いた)ことがない
- ②週に1回程度見る(聴く)
- ③月に1回程度見る(聴く)
- ④2、3ヶ月に1回程度見る(聴く)

10. あなたは中国語Iを勉強することによって、中国人の友人が増えましたか。

- ①増えた
- ②どちらとも言えない

11. あなたは周りの中国人と週に何時間程度中国語の会話練習をしますか。

- ①1時間未満
- ②1時間以上～2時間未満
- ③2時間以上～3時間未満
- ④3時間以上

12. あなたはAPU孔子学院の中国語講座を受講したいと思いますか。

- ①はい (その理由 )
- ②いいえ (その理由 )

13. あなたにとって、成果のある中国語学習とはどのようなものですか。

- ①単位を取得すればいい
- ②総合評価はA以上を取得すればいい
- ③学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい
- ④中国語Ⅲ、Ⅳまで学習を継続すること
- ⑤HSKや中国語検定など資格を取得すること
- ⑥中国語によるスピーチコンテストやカラオケ大会などイベントに参加すること
- ⑦イメージングプログラムやフィールドスタディなど海外研修に参加すること

⑧その他 ( )

14. あなたは中国語の授業を中国語で受けてみたいですか、それとも、日本語で受けてみたいですか。

①中国語

②日本語

③半分中国語、半分日本語

④その他 ( )

ご協力、ありがとうございました。

[資料2]

#### 中国語Ⅲ(Ⅳ)の学習者に対する学習実態調査及び意識調査

国籍：

学年： 1    2    3    4

学部： APS    APM

このアンケートは本学の中国語教育の現状と課題を把握することを目的とした調査です。皆さんからいただく回答は中国語教育の向上のために非常に重要です。調査結果は本学の中国語教育の改善にのみ利用されます。なお、本調査は皆さんの成績と評価にはまったく影響がありません。ご協力を心より感謝いたします。

★下記の質問に対し、最もあてはまる答えを1つだけ選び、○をつけてください。

1. あなたはいつから中国語を勉強したいと思いましたか。

①APUに入学する前

②APUに入学してから

2. あなたはどうして中国語を勉強したいと思いましたか。

①先輩にすすめられたから

②中国の文化に興味を持っているから

③就職活動に役に立ちそうだから

④将来、中国語を活かす仕事をしたいから

⑤中国の経済に興味を持っているから

⑥中国に留学したいから

⑦友人、親戚に中国人がいるから

⑧その他 ( )

3. あなたは中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのどのレベルまで受講する予定ですか。

- ①中国語Ⅰまで
- ②中国語Ⅱまで
- ③中国語Ⅲまで
- ④中国語Ⅳまで
- ⑤まだわからない

4. 質問「3」で、「④」を選んだ人に聞きます。

あなたが中国語Ⅳを履修するなら次のどのようなことを参考にしますか。

- ①中国語Ⅳを履修した先輩のアドバイスを参考にする
- ②オンラインシラバスを参考にする
- ③自分の学習プランに合わせるので、先輩のアドバイスをあまり参考にしない。
- ④自分の学習プランに合わせるので、シラバスをあまり参考にしない。
- ⑤その他 ( )

5. あなたは自宅で中国語を勉強しますか。

- ①しない
- ②宿題のみをする
- ③学習目標を設定し、自分なりに勉強をする

6. あなたは授業以外に平均して週に何時間程度中国語を勉強しますか。

- ①2時間未満
- ②2時間以上～4時間未満
- ③4時間以上～6時間未満
- ④6時間以上

7. あなたはNHKの中国語テレビ講座及びラジオ講座を見ます(聴きます)か。

- ①見た(聴いた)ことがない
- ②週に1回程度見る(聴く)
- ③月に1回程度見る(聴く)
- ④2、3ヶ月に1回程度見る(聴く)

8. あなたは中国語を勉強することによって、中国人の友人が増えましたか。

- ①増えた
- ②どちらとも言えない

9. あなたは周りの中国人と週に何時間程度中国語の会話練習をしますか。

- ①1時間未満
- ②1時間以上～2時間未満
- ③2時間以上～3時間未満
- ④3時間以上

10. あなたは APU 孔子学院の中国語講座を受講したいと思いますか。

- ①はい (その理由 )
- ②いいえ (その理由 )

11. あなたにとって、成果のある中国語学習とはどのようなものですか。

- ①単位を取得すればいい
- ②総合評価は A 以上を取得すればいい
- ③学習した中国語を使って中国人とコミュニケーションができればいい
- ④中国語IVまで学習を継続すること
- ⑤HSK や中国語検定など資格を取得すること
- ⑥中国語によるスピーチコンテストやカラオケ大会などイベントに参加すること
- ⑦イメージンプログラムやフィールドスタディなど海外研修に参加すること
- ⑧その他 ( )

12. あなたは中国語の授業を中国語で受けたいですか、それとも、日本語で受けたいですか。

- ①中国語
- ②日本語
- ③半分中国語、半分日本語
- ④その他 ( )

ご協力ありがとうございました。